

執筆者紹介

Jean-Noël ROBERT (ジャンーノエル・ロベール)

フランス国立高等研究院教授・国文学研究資料館客員教授

パリ第7大学卒業、同大学博士後期課程修了。国家博士（人文学）。フランス国立科学研究所助教授を経て現職。1988年に渋沢－クロードル賞受賞。専門は日本天台学を中心とする東アジア仏教で、著書に『日本漢文読本』（パリ第7大学出版会、1986）、*Les doctrines de l'école japonaise Tendai au début IXe siècle : Editions Maisonneuve et Larose*, 1988、『心の「寺」を観る—あるフランス人の仏教学者が見た仏教』（佼成出版社、1995）、『二十一世紀の漢文—死語の将来—』（国際日本文化研究センター、2001）などがある。

今関 敏子 (いまぜき・としこ)

川村学園女子大学教授

専門は中古・中世の日記、和歌、物語。著書に『中世女流日記文学論考』（和泉書院、1987）、『校注弁内侍日記』（和泉書院、1989）、『〈色好み〉の系譜—女たちのゆくえ』（世界思想社、1996）、『『金槐和歌集』の時空』（和泉書院、2000）『信生法師集新訳注』（風間書房、2002）、共編著書に『はじめて学ぶ日本女性文学史【古典編】』（ミネルヴァ書房、2003）、論文に『『竹取物語』論—異次元の旅人・かぐや姫』（『古代中世文学論考』新典社、2002）などがある。

Krzysztof OLSZEWSKI (クシシュトフ・オルシェフスキ)

ヤギェウォ大学助教授

1997年にヤギェウォ大学（クラクフ・ポーランド）を卒業、2002年6月に同大学博士課程を修了。人文学博士。同年10月より現職。専門は平安時代文学で、特に黄巢の乱（875年）、つまり唐の滅亡の後、日本美術・文学がどういう風に国風化されてきたか、また唐代文学が平安時代前期の日本文学にどのような影響を与えたかという問題に関心をもっている。今後は「日記」という文学ジャンルの原型について、あるいは仮名日記における唐代紀行文学や具注暦の影響を研究する予定。

黄 幼 欣 (HWANG You-hsin)

南台科技大学専任講師・杏林大学大学院博士課程

岡山大学大学院修士課程修了、現在に至る。専門は日本近代文学、特に佐藤春夫と中国文学の関係について。論文に「元槿「秋非我独秋」の典拠と影響」

(『岡大國文論考』18、1990・3)、「佐藤春夫と中国短編白話小説集『三言』—「李太白」の小説創作をめぐる—」(『日本研究』27、2003・4)など。

康 志 賢 (KANG JiHyun)

麗水大学校助教授

韓国・済州大学校を卒業、韓国外国語大学大学院修了後、九州大学大学院に入り、修士・博士課程を修了後、現職。専門は十返舎一九を中心とする江戸後期の戯作。論文に、「一九の創作姿勢に関する一考察—享和期の読本と黄表紙を題材として—」(『語文研究』85)、「十返舎一九洒落本における教訓性—振鷲亭・式亭三馬との対照を通して—」(『文学研究』89)、「初期忠臣蔵もの黄表紙の展開史攷」(『日語日文学研究』39)などがある。

権 丁 熙 (KWON JungHee)

東京大学大学院博士課程

韓国成均館大学卒業。東京大学大学院超域文化科学専攻修士課程終了後、1999年4月から同大学大学院博士課程に在籍。研究分野は明治小説と韓国の新小説を中心とした日韓比較文学。論文に「海峡を超えた「国民文学」—朝鮮における「不如帰」の受容をめぐる—」(『日本近代文学』第65号、2001・10)などがある。

Sreedevi REDDY (シュリーデーヴィ・レッドィ)

筑波大学大学院博士課程

インド・ネルー大学卒業、同大学院修士課程修了、デリー大学大学院博士課程中退、東京大学大学院特別研究生、筑波大学大学院修士課程を経て、現在に至る。専門は近代日本文学。インドおよび日本における教歴を有する。学会発表に「Prof. U.R. Anathamurthy and his novel “Samskara”」(1998・5、東方学会南アジア研究)がある。

唐 瓊 瑜 (TANG Chiung-yu)

武蔵大学総合研究所奨励研究員

台湾・淡江大学卒業後、武蔵大学大学院修士課程修了、同博士課程進学、現在に至る。専門は台湾戦前の日本語文学で、論文に「周金波論—その人とその主な小説における知識人についての描写—」(『アジア文化研究』7、2000・6)、「周金波作品評価の変遷について—〈水癌〉と〈志願兵〉を中心に—」(『武蔵大学人文学会雑誌』32-1、2000・10)、「〈水癌〉論」(『アジア文化研究』8、

2001・6) などがある。

金 貞 愛 (KIM JungAe)

筑波大学大学院博士課程

韓国西京大学日語日文学科在学中日本語日本文化研修生として来日。その後筑波大学大学院修士課程地域研究研究科日本文化コース修了、現在に至る。研究分野は在日朝鮮人文学。論文に「〈習作〉、あるいは〈改作〉というレトリック—李恢成の「その前夜」と「死者の遺したもの」—」(筑波大学比較・理論文学会『文学研究論集』第20号、2002年3月) などがある。

SAOWALAK Suriyawongpaisal (サオワラック・スリヤウォンパイサーン)

チューラーロンコーン大学助教授

マッシー大学卒業、オークランド大学修士課程およびハーバード大学博士課程修了、チューラーロンコーン大学文学部専任講師を経て現職。専門は謡曲。主な著作に、『謡曲』(1985)、『風姿花伝 タイ語訳・解説』(1990)、『実用タイ語会話2』(共著、1999)、『講談社ふりがな日・タイ辞典』(共訳、2001) などがある。

金 賢 旭 (KIM HyeonWook)

東京大学大学院博士課程

韓国・檀国大学校卒業、韓国外国語大学大学院修了後、東京大学大学院総合文化研究科修士課程に入り、現在に至る。専門は能楽で、主な論文に「翁舞と処容舞—日韓呪術歌舞の共通性」(『文学』1999春)、「在日韓国人の演劇」(『韓国演劇』2000・10)、「禅竹の翁と稻荷の翁」(『鏡仙』2002・1)、「中世日本の渡来神信仰をめぐって」(『表象文化研究』2号、2003)、「幼術考」(『超域文化科学紀要』8号、2003) などがある。

小山 聡子 (こやま・さとこ)

筑波大学大学院博士課程

筑波大学卒業後、同博士課程歴史・人類学研究科に入学、現在に至る。日本学術振興会特別研究員。専門は日本中世宗教史。論文に「中世前期における童子信仰の隆盛と末法思想」(『仏教史学研究』43-1、2000・12)、「末法の世における穢れとその克服—童子信仰の成立—」(今井雅晴編『中世仏教の展開とその基盤』大蔵出版、2002・7) などがある。